



『Sustainable Development Goals』

持続可能な開発目標

身近な問題に取り組もう編

2030年までの国際目標の中で、私たちが身近に取り組むべきこともたくさんあります。特集2では「実はこれもSDGs？」な本を紹介します。

目標5 ジェンダー平等を実現しよう

『ジェンダーで読み解く男性の働き方・暮らし方—ワーク・ライフ・バランスと持続可能な社会の発展のために—』

(多賀太／著 時事通信出版局 2022.3)

なかなか進まない男性の家事・育児参加。男性稼ぎ手社会を壊すことは、男性の生きづらさも解消します。ジェンダー平等に向けた、本気の働き方・暮らし方改革について考察しています。

目標12 つくる責任 つかう責任

『調味料保存&使い切りのアイデア帖』

(島本美由紀／著 パイインターナショナル 2020.6)

気づいたら期限切れ、うまく使いこなせない…。調味料に関する悩みを解決できるよう、それぞれの調味料に適した保存のコツや、最後まで使い切るためのレシピ、アイデアが収録されています。

目標13 気候変動に具体的な対策を

『身近な電気・節電の知識—Q&A形式—』

(柴田尚志／共著 森田一弘／共著 オーム社 2011.9)

身近なテーマを例に、電気の知識をわかりやすくまとめた入門書。電気の基礎知識から電気エネルギーの発生、送電、利用法まで、防災・節電の観点からQ&A形式で解説しています。

目標14.15 海・陸の豊かさを知ろう

『これってホントにエコなの?—日常生活のあちこちで遭遇する“エコ”のジレンマを解決—』

(ジョージナ・ウィルソン=パウエル／著 吉田綾／監訳 吉原かれん／訳 東京書籍 2021.9)

ヨーグルトの容器は、リサイクルに出す前に洗うべき? いちばんグリーンな移動手段とは? 日常生活で遭遇するエコな暮らしに関する疑問について、事実に基づいた回答と、環境に優しく、シンプルな解決策が示されています。

第5回

書名でしりとり

書名の最後の1字で次の本へつなげていく企画
第5回の文字は前回の書名から「む」です。

『武蔵の酒蔵めぐり』

(おでかけNA埼玉制作班／編 徳間書店 2020..2)

武蔵こと埼玉県が清酒出荷量全国5位、消費量4位であることをご存じでしょうか。実は隠れた地酒パラダイス・埼玉の酒蔵34か所から蔵を見学できる13頭を選んで、直売所・試飲・酒蔵料理までじっくり紹介。“おとりよせ”より“おでかけ”したくなる酒蔵めぐり、まだ見ぬ地酒に出会う一助にいかが。



ちらっと



Chiratto Vol.34

2022年4月-2022年5月号

特集1

特集2

Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標

連載

書名でしりとり

お知らせ

西東京市図書館からのお知らせ FM西東京で紹介した本



『Sustainable Development Goals』

持続可能な開発目標

社会全体で取り組もう編

最近よく聞く「SDGs(エスディーゼズ)」という言葉。よりよい世界を目指すための17の国際目標を紹介しながら、社会全体で考えていきたい問題に関する本を紹介します。

SDGsの17の目標

1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなに。そしてクリーンに
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤を作ろう
10. 人や国の不平等をなくそう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任 つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさを守ろう
16. 平和と公正をすべての人に
17. パートナーシップで目標を達成しよう

目標1 貧困をなくそう

『本当の貧困の話をして—未来を変える方程式—』

(石井光太／著 文藝春秋 2019.9)

国内外の最底辺を取材し続けてきた著者が、想像を絶する貧困のリアルから様々な支援の方策までを、17歳に全力で伝える講義。身近に潜む貧困、世界の現状、貧困がなくなる社会構造をわかりやすい言葉でひも解いています。

まずは入門書から

『SDGsの考え方と取り組みがこれ1冊でしっかりわかる教科書』

(バウンド／著 技術評論社 2020.11)

「そもそもSDGsとは何か?」をイラストを交えてわかりやすく解説しています。国際的な取り組みや企業が行うSDGs経営についての解説はもちろん、私たちが個人として貢献できる行動についても書かれています。

『やるべきことがすぐわかる!SDGs実践入門』

(泉貴嗣／著 技術評論社 2021.1)

SDGsをビジネスで実践しようとする中小企業経営者や担当者に向けて、どのような考え方をすべきか、どのように取り組むべきかを解説しています。旧来のビジネス観から脱却し、労働環境の改善や社会貢献につながるようなビジネスの実現に向けたヒントが詰まっています。

目標11 住み続けられるまちづくりを

『生態学者の目のツケドコロ—生きものと環境の関係を、一歩引いたところから考えてみた—』

(伊勢武史／著 ベレ出版 2021.1)

生態学とは、生物とそれを取り巻く環境の相互作用を考える学問分野。生態系や外来生物、生物進化、生物多様性、環境問題など、あらゆる問題を生態学の視点から見たらどうなるかが、やさしい文章でつづられています。合間に入るコラム「生態学者のヒトリゴト」も興味深いです。

西東京市図書館からのお知らせ

中央図書館が再開しました

耐震補強等改修工事のため休館していた中央図書館は、2022年4月1日(金曜日)より再開しました。利用者のみなさまには長い間ご不便をおかけいたしました。ご理解いただき感謝申し上げます。

F M西東京で紹介した本

『懐かしくて新しい「銭湯学」』

(町田忍／監修)

メイツユニバーサルコンテンツ 2021.9)

家のお風呂では味わえない解放感のある銭湯。その魅力や楽しみ方を、余すところなく伝えてくれる本です。銭湯の歴史から、一日の様子、浴室やペンキ絵などの見どころ、そして日本各地の味のある銭湯が紹介されています。著者はこの本を、「銭湯に懐かしさを覚えるという世代から、レトロなものに魅力を感じるという若者まで、銭湯文化に興味を持つ皆さんに贈る」と書いています。写真が多く、同じ銭湯と言っても、さまざまな意匠や工夫があり、視点を変えるといろいろな銭湯の世界が見えること間違いなしです。

『〈洗う〉文化史—「きれい」とは何か—』

(国立歴史民俗博物館／編 花王株式会社／編 吉川弘文館 2022.2)

目に見える汚れ、目に見えない汚れ、私たちはなぜ清潔を求めるのか、私たちはなぜ「洗う」のか。新型コロナウイルス感染症の拡大により、改めて清潔や清浄について見直すことも多かったと思います。こちらは「洗う」という問題に焦点をあてて、古代～現代の様々な事例を取り上げ、文献・絵画・民俗資料から分析をし、日本人にとって「きれい」とは何かを考え、現代の清潔志向の根源を探る一冊です。国立歴史民俗博物館と花王株式会社の共同研究「清潔と清浄をめぐる総合的歴史文化研究」の成果として発行されました。

発行: 西東京市図書館

<http://www.library.city.nishitokyo.lg.jp>